野鳥だより

—北海道—

第 52 号

編集・発行　北海道野鳥愛護会

発行年月日　昭和58年6月21日

アカショウビン　野幌森林公園 1983. 5. 20　紅林雅文

もくじ

探鳥地案内（植苗）…… 2

小樽海岸及びその周辺の野鳥……中野高明…… 3

国後島・野鳥の四季……藤巻裕蔵…… 6

昭和58年度総会経過報告…… 8

探鳥会報告　藤の沢、野幌、ウトナイ湖、野幌…… 9

探鳥会案内、鳥民だより、編集後記…… 12

探鳥地案内

植　苗

(21)

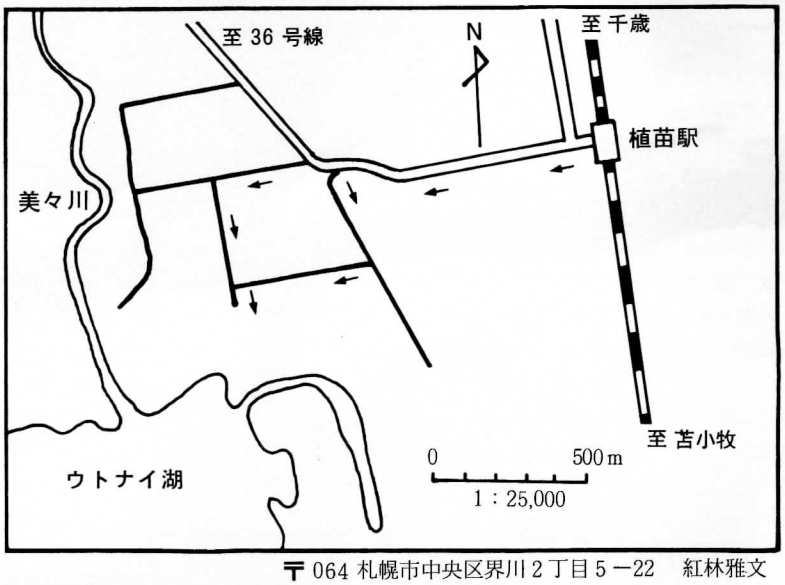
◆位置　苫小牧市植苗
◆交通　国鉄千歳線植苗駅下車
◆概況　ウトナイ湖の北東部。ウトナイ湖サンクチュアリのネイチャーセンターの東方部で、美々川が同湖にそそぐあたりである。

主に湿地帯で、広く草原になっており、草原の鳥が5月末から7月一杯楽しめる。さらにその北部は広葉樹林帯になっており、山の鳥も見る事ができる。

◆探鳥コース　約2km。植苗駅より舗装道路を西へ向って歩き出すと、ホオジロ、キビタキ、などのうたが聞こえはじめ、700m程で左へ入ると、エナガ、シジュウカラなどのカラ類がよくさえずっている。林をぬけると草原がひらける。オオジシギのディスプレイを見、カッコウの澄んだ声を聞きながら、ウトナイ湖の方へ向って歩いていくと、ノビタキ、オオジュリン、シマアオジなどが飛び出す。

美々川の近くでは、コヨシキリ、シマセンニュウなどがよくさえずっている。ここら辺でじっくり腰をすえて、探鳥するのが良い。上空を見上げれば、アオサギ、ワシタカ類、ツバメ類が観察でき、湖にはアカエリカイツブリ、カモ類を見る事ができる。

◆上記以外に見られる鳥、ヒバリ、マキノセンニュウ、ホオアカ、カワラヒワ、モズ、アカモズ、エゾセンニュウ、アリスイ、ノゴマ、ハクセキレイ、キジバト、ツツドリ、センダイムシクイ、アオジ、メジロ、シメ、コゲラ、など。



〒064 札幌市中央区界川2丁目5－22　紅林雅文

小樽海岸及びその周辺の野鳥

中野　高明

小樽市は後を山々に囲まれた良港として発展した町であったが、急速な都市化の波にもまれ美しかった自然の姿も、目に見えてその姿が変えられてきている。

当然なことに野鳥の生息にも大きな影響があらわれ、昭和初期から中期にはいくらでも目にふれていた野鳥も今は昔ばなしに近くなったものも数多くなっている。

しかし悲観ばかりしてはいない。以前渡来していた所には時折り姿を見せることもあるもので、思わぬ町中に「おや」と目を疑うような野鳥の姿に接し驚くこともあるものである。勝納川川下もその例の一つで、すでに以前の姿に帰らすことは無理とは思うが惜しまれる探鳥地である。

小樽市は地形的には海鳥が多く海鴨やカモメ類に恵まれ、毎年愛護会の方々がご家族づれで来訪されているが冬期間小樽港を含めて銭函から余市海岸まで車などを利用されマイペースで探鳥されれば収獲の多い一日が過ごされることだと思う。また陸地の方も張碓町、奥沢水源地、旭町、赤岩と四ヶ所も鳥獣保護区が設けられており、そのほかにも札幌営林署の「長橋苗圃」という極めて交通至便な探鳥地もあります。今回、今まで記録のあるものを記載してほしいという話しをお受けし、まだまだ不十分な状態であることを承知の上で投稿させていただきました。記録のあるものは166種で、うち里の鳥13%、草原の鳥10%、山の鳥43%、水辺の鳥12%、海の鳥22%となっております。やや珍らしいと思うものの生息地は紙面の都合上簡単に記しました。あくまでも、これを一つのたたき台として、皆様方のご協力をえてより一層充実して参りたいと考えております。

小樽海岸とその周辺の野鳥

凡例　——　見られる時期
　　○　1回のみまたは観察頻度の低いもの
　　●　繁殖しているもの

科名	種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
アビ	オオハム												—	S55・1・12 S57・12
カイツブリ	カイツブリ					—	—	—	—	—	—	—		●
	ハジロカイツブリ	—	—	—										
	アカエリカイツブリ												○	
ウ	ウミウ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	ヒメウ	—	—	—	—						—	—	—	
サギ	チュウサギ				○	○								S49・4 S55・5 蘭島 中野
	ダイサギ				○									S58・4 銭函 梅木 斉藤
	コサギ						○							S56・6 海上 富樫
	オオヨシゴイ									○				S57・9・12 銭函
ガンカモ	オオハクチョウ	○												S56・1 小樽港
	オシドリ			—	—	—	—							奥沢水源地
	マガモ	—	—	—	—	—	—				—	—	—	
	カルガモ	—	—	—	—	—	—				—	—	—	
	コガモ			—	—						—	—		
	スズガモ	—	—	—	—						—	—	—	
	クロガモ	—	—	—	—							—	—	
	ビロードキンクロ	—	—	—	—							—	—	

科名	種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
ガンカモ	シノリガモ	—	—	—	—						—	—	—	
	キンクロハジロ	—	—	—	—						—	—	—	
	オナガガモ			○										S58·3·21 蘭島
	コオリガモ	—	—	—							—	—	—	
	ホオジロガモ	—	—	—							—	—	—	
	ハシビロガモ										—	—		
	ミコアイサ	—	—	—							—	—	—	
	ウミアイサ	—	—	—							—	—	—	
ワシタカ	ミサゴ									○				
	トビ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●
	オジロワシ			○								○		
	オオタカ										○	○		
	ツミ									—	—			
	ハイタカ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●
	ノスリ				○		○				○			
	クマタカ									○				
ハヤブサ	ハヤブサ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●
	チゴハヤブサ						- - -	- - -	- - -	—	- - -			S23 小樽公園で営巣
	チョウゲンボウ										○			S23 長橋町で捕獲
ライチョウ	エゾライチョウ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●
キジ	ウズラ					—	—	—	—	—				● 銭函
	(コウライ)キジ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●
クイナ	クイナ					- - -	—	- - -	- - -	- - -				
	ヒクイナ					—	—	—	—	—				●
	バン					—	—	—	—	—				●
チドリ	コチドリ					—	—	—	—					●
	シロチドリ						○							
シギ	キアシシギ					—	—			—				
	イソシギ					—	—	—	—	—				●
	ヤマシギ					—	—	—	—	—	—			●
	オオジシギ					—	—	—	—	—				●
ヒレアシシギ	アカエリヒレアシシギ					—	—		—	—				
カモメ	ユリカモメ	—	—	—	—					—	—	—	—	
	セグロカモメ	—	—	—								—	—	
	オオセグロカモメ	—	—	—	—	—					—	—	—	
	シロカモメ	—	—	—	—						—	—	—	
	ワシカモメ	—	—	—									—	
	カモメ	—	—	—								—	—	
	ウミネコ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	ミツユビカモメ	—	—	—	—						—	—	—	
	アジサシ					—			—	—	—			
ウミスズメ	ウミガラス	—	—	—	—							—		
	ケイマフリ												○	
	エトロフウミスズメ		○											S39·2·4 2羽保護さる
	コウミスズメ	—	—	—										
	ウミスズメ	—	—										—	
	ウトウ	○	○											
ハト	キジバト			—	—	—	—	—	—	—	—			●
	アオバト					—	—	—	—	—	—			●
ホトトギス	ジュウイチ					—	—	—	—	—				●
	カッコウ					—	—	—	—	—				●
	ツツドリ					—	—	—	—	—				●
	ホトトギス						○							S19·6·16 赤岩
フクロウ	コミミズク	○											○	

科名	種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
フクロウ	コノハズク						○							
	オオコノハズク													
	アオバズク													
	フクロウ													
ヨタカ	ヨタカ													●
アマツバメ	ハリオアマツバメ													
	アマツバメ													●
カワセミ	アカショウビン													●
	カワセミ						○	○						
キツツキ	アリスイ													●
	ヤマゲラ													●
	クマゲラ					○					○	○		S58・5・15 緑町 梅木
	アカゲラ													●
	オオアカゲラ													●
	コゲラ													●
ヒバリ	ヒバリ													●
ツバメ	ツバメ													●
	イワツバメ													●
セキレイ	キセキレイ													●
	ハクセキレイ													●
	ビンズイ													
ヒヨドリ	ヒヨドリ													●
モズ	モズ													●
	アカモズ													●
	オオモズ				○						○			S36・10 赤岩S36・4 銭函
レンジャク	キレンジャク													
	ヒレンジャク													
カワガラス	カワガラス													●
ミソサザイ	ミソサザイ													
イワヒバリ	ヤマヒバリ				○							○		S38・4 S19・・11 赤岩
	カヤクグリ										○			
ヒタキ	コマドリ													
	ノゴマ					○								
	コルリ													●
	ルリビタキ													
	ジョウビタキ		○	○								○		
	ノビタキ													●
	イソヒヨドリ													●
	マミジロ					○								
	トラツグミ													●
	クロツグミ													●
	アカハラ													●
	シロハラ													
	マミチャジナイ					○					○			
	ツグミ													別亜種ハチジョウツグミが時折みられる
	ヤブサメ													●
	ウグイス													●
	エゾセンニュウ													●
	コヨシキリ													●
	オオヨシキリ													●
	メボソムシクイ													
	エゾムシクイ					○	○			○				
	センダイムシクイ													●
	キクイタダキ													

科名	種名	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	備考
ヒタキ	キビタキ													●
	ムギマキ					○								
	オオルリ													●
	エゾビタキ					○				○				
	コサメビタキ													●
エナガ	(シマ)エナガ													●
シジュウガラ	ハシブトガラ													●
	コガラ													●
	ヒガラ													●
	ヤマガラ													●
	シジュウガラ													●
ゴジュウガラ	ゴジュウガラ													●
キバシリ	キバシリ													
メジロ	メジロ													●
ホオジロ	ホオジロ													●
	ホオアカ													●
	カシラダカ													
	シマアオジ													●
	アオジ													●
	クロジ					○								
アトリ	アトリ													
	カワラヒワ													●
	マヒワ													
	ベニヒワ													
	ハギマシコ													
	オオマシコ										○			
	ギンザンマシコ			○								○	○	
	イスカ													
	ナキイスカ											○		S27・S38・11 赤岩
	ベニマシコ													●
	ウソ													アカウソ・ベニバラウソを混ず (S32・11S37・1赤岩天狗山
	イカル													●
	シメ													●
ハタオリドリ	スズメ													●
ムクドリ	コムクドリ													●
	ムクドリ													●
カラス	(ミヤマ)カケス													●
	ホシガラス										○			S31・10 赤岩
	ハシボソガラス													●
	ハシブトガラス													●

(42科 166種)

〒047 小樽市清水町26番31号 中野高明

国後島・野鳥の四季 (1) 春

藤巻 裕蔵

知床半島の山に登ると、根室海峡をへだて目の前に国後島が見える。1982年には島の西端の湿原でタンチヨウが繁殖した。おそらく北海道から渡ったものであろう。タンチョウにしてみれば、根室地方から国後までは一っとびである。多くの渡り鳥も北海道と国後を通過する。また北海道東部と国後島では植生がよく似ており、鳥相

は多くの点で共通している。

V. A. ネチァエフ博士は1962年6月から翌年8月まで国後島に滞在し、鳥類の調査を行った。そのときの資料から野鳥の四季を紹介する。

国後島の春は3月中旬から6月上旬までの2ヶ月半である。この期間は多くの夏鳥が渡来し繁殖を始め、北千島で繁殖する種が渡る。3月中旬には雪どけが始まり、シジュウカラ、ヒガラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラ、キバシリがさかんにさえずるようになる。20日頃にはオオハクチョウが北へ渡り、ムクドリがやってくる。

3月末までには雪は急速にとけ、川の氷も割れはじめる。南向きの斜面ではフキノトウが芽をだし、湿潤な林ではミズバショウが芽を出す。ヒバリ、ハクセキレイ、ホオジロが渡来し、川岸や湖岸の雪のない所で採餌する。根室海峡ではヒメウ、ホオジロガモ、コオリガモ、クロガモ、シノリガモ、ウミアイサ、カワアイサ　セグロカモメ、シロカモメが北へ向うのがよく観察される。3月28日にはミソサザイがさえずり始めた。

4月上旬、根室海峡には開水面ができるようになり、ウ類、シノリガモ、ビロードキンクロ、アイサ類、カモメ類、ウミスズメ類の群が、氷上にはオオワシやオジロワシが見られ、湖では氷もとけ、マガモ、カルガモ、ヨシガモ、オナガガモ、コガモが飛来する。陸鳥では10日頃モズが渡来し、ハクセキレイとホオジロの渡来数が多くなる。

4月上旬から中旬にかけては暖かい日があるかと思うと寒くなり、天候は不順である。ナニワズの花が咲き、雪は山の北斜面に残るだけである。中旬にはヤマシギ、キジバト、ノビタキ、トラツグミ、カワラヒワ、シメ、ミサゴが渡来する。海上では北上するウ類、カモ類、カモメ類は減少するが、河口や湖にはまだユリカモメが多い。ムクドリがつがいとなり始め、モズの渡りがまだ続く。エゾアカガエルがなきはじめるのもこの頃である。

4月下旬になるとミズバショウ、スミレ、ヤナギの花が咲き、雪はかなり消える。いろいろな鳥の渡来が多くなり、カイツブリ、アリスイ、アカハラ、カヤクグリ、キセキレイ、ニュウナイスズメ、オオジュリン、アオジが見られるようになる。北上中のタヒバリ、ハギマシコ、ベニヒワ、カシラダカがまだおり、ウソやギンザンマシコが繁殖地である山地に移動しはじめる。4月末にはコチドリ、タシギが姿を現わし、キツツキ類、カケス、カラス類、シジュウカラ類、ゴジュウカラ、キバシリが繁殖を始める。

5月上旬には雪はほとんどとけ、ヤナギ、ハルニレ、エゾノリュウキンカ、ニリンソウの花が咲く。バン、オオジシギ、イワツバメ、コルリ、ウグイス、ビンズイ、クロジ、オシドリ、アトリが渡来する。4月末までに渡来した鳥は営巣しはじめており、マガモ、ノスリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラスが産卵、抱卵している。

5月中旬にはチシマザクラの花が咲き、シウリザクラ、ニワトコなどの広葉樹が開葉しはじめる。ツツドリ、センダイムシクイ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、コムクドリ、マヒワが渡来し、森林の鳥の大部分がそろう。海岸ではキアシシギ、キョウジョシギ、トウネン、ヒバリシギなどのシギがまだ見られ、海上では、ウ類、カモ類、カモメ類がいる。

5月下旬から6月上旬にかけて広葉樹はほぼ開葉し終る。遅く渡ってくるクイナ、カッコウ、アマツバメ、ノゴマ、コヨシキリ、マキノセンニュウ、エゾセンニュウ、シマセンニュウもそろい、春の渡りが終る。また北へ向うカモ類やシギ類の渡りも終る。(つづく)。

夏鳥の初認日（1963年）

ムクドリ	3月19日	カヤクグリ	22日	アカハラ	5月1日	ヤブサメ	5月14日
ハクセキレイ	27日	キセキレイ	25日	クロジ	2日	コムクドリ	15日
ホオジロ	27日	ルリビタキ	26日	ウグイス	3日	オオルリ	16日
ヒバリ	29日	アリスイ	26日	ビンズイ	4日	ツツドリ	17日
モズ	4月7日	オオジュリン	26日	バン	5日	コサメビタキ	19日
キジバト	13日	ニュウナイスズメ	27日	イワツバメ	6日	シマアオジ	30日
ミサゴ	14日	カイツブリ	27日	オオジシギ	6日	ノゴマ	30日
ノビタキ	17日	アオジ	28日	コルリ	9日	シマセンニュウ	30日
トラツグミ	18日	ホオアカ	5月1日	キビタキ	14日	コヨシキリ	30日

〒080 帯広市稲田町帯広畜産大学

昭和58年度総会経過報告

とき　昭和58年4月26日（火）　午後6時30分～9時
ところ　北海道婦人文化会館

総会は井上会長を議長に選出した後、次の事項について審議が行なわれ、原案どおり成立しました。

1　昭和57年度事業報告、決算報告、監査報告について

＜事業＞

(1)探鳥会（57年4月から58年3月まで12回実施）

(2)野鳥だよりの発行（48号から51号まで4回発行）

(3)その他の活動

・新年懇親会の開催

・野鳥写真展の開催

＜決算＞

収入－支出＝差引残額407,956円

＜監査＞

野村監事により適正なものと報告されました。

2　昭和58年度事業計画及び予算案について

＜事業＞

(1)探鳥会（58年4月から59年3月まで12回開催）

・札幌周辺以外の場所での探鳥会（1泊2日）も企画、検討する。

(2)野鳥だより（52号～55号まで4回発行）

(3)その他の事業

・新年懇親会の開催

・野鳥写真展の開催

・地方連絡員体制の確立

・チェックリストによる野鳥分布図の作成

＜予算＞

原案どおり成立

3　会則改定

会則を次のように改定する

第6条　本会に次の役員を置く。

会長　1名

昭和57年度決算・収入の部

区分	決算額	予算額	摘要
繰越金	298,998円	298,998円	
会費	564,000	596,500	
寄付金	13,000	10,000	5件
参加費	15,600	20,000	藤の沢 11,400 新年懇親会 4,200
売上金	227,100	220,000	野鳥だより 200,000 テキスト 27,100
雑収入	6,918	4,502	預金利息
計	1,125,616	1,150,000	
会費仮受分	94,500	0	58年度会費、64名分
合計	1,220,116	1,150,000	

昭和58年度予算・収入の部

区分	予算額	摘要
繰越金	313,456円	
会費仮受金	94,500	64名分
会費	507,000	320名、6団体
寄付金	10,000	
参加費	0	
売上金	220,000	野鳥だより 200,000 他
雑収入	5,044	預金利息
合計	1,150,000	

昭和57年度決算・支出の部

区分	決算額	予算額	摘要
印刷費	463,000円	450,000円	野鳥だより他
通信費	195,350	190,000	野鳥だより送料他
会議費	82,140	71,000	総会、編集会議他
消耗品費	1,360	15,000	封筒　他
賃金	950	30,000	野鳥だより発送他
報償費	58,800	76,000	探鳥会手当他
予備費	10,560	318,000	ネームプレート他
合計	812,160	1,150,000	

昭和58年度予算・支出の部

区分	予算額	摘要
印刷費	490,000円	野鳥だより　440,000 他
通信費	192,000	野鳥だより発送　140,000 他
会議費	91,000	総会、幹事会他
消耗品費	15,000	ネームプレート他
賃金	20,000	野鳥だより発送他
報償費	67,000	探鳥会手当他
予備費	275,000	
合計	1,150,000	

副会長　5名以内
幹事　15名以上40名以内
監事　2名

第10条　本会に顧問を置くことができる。役員が推せんし、会長が委嘱する。

第11条　総会は毎年1回、原則として4月に開催するものとし、予算、決算及び事業計画などを審議する

（役員会）

第12条　役員会は必要の都度開催し、会務を審議する

（会　計）

第13条　本会の経費は会費その他の収入をもってあて、会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

4　役員選出

長年ご尽力をいただいた野口正男氏、島田明英氏に代わり、新幹事として片岡秀郎氏、霜村耕一氏、関口健一氏、大坊幸七氏、天童雅俊氏、道川冨美子さん、屋代育夫氏、横田通典氏を迎えました。総会後の幹事会で代表幹事並びにそれぞれの担当が決まりましたのでお知らせします。

会長　井上元則
副会長　苣野寿衛吉、佐々木勇、斉藤春雄、新妻　博、土屋文男
監事　谷口一芳、野村梧郎
代表幹事　小堀煌治
会計幹事　○渡辺紀久雄、新宮康生
総務幹事　○岩泉ゆう子、飯山五玖子、岡田幹夫　片岡秀郎、小堀煌治、柳沢千代子
探鳥会幹事○早瀬広司、梅木賢俊、亀尾紋十郎、関口健一、中野高明、長谷川涼子、平井さち子、道川冨美子、屋代育夫、渡辺俊夫
広報幹事　○白沢昌彦、北尾　諭、紅林雅文、霜村耕一　大坊幸七、天童雅俊、萩　千賀、羽田恭子、猿子正彦、村野紀雄、柳沢信雄、横田通典

（○印は担当代表者）

藤の沢

58.1.23

船尾　恭子

新年初の探鳥会は小鳥の村、白鳥園で行われた。村長の小沢氏の庭には鳥たちにどっさりと、はさ掛けにしたトウモロコシが用意されている。

室内から真近かに観察出来るとあって大盛況だ。寒風をものともせず開け放した窓辺で望遠鏡やカメラを構えている人、脂身やリンゴへ来る鳥の採餌や枝移りを見守る人、鳥関係の新刊書や図鑑の頁をめくる人、自分で撮った珍鳥の鑑定を受ける人などみんな研究熱心だ。前山の木立越しに人の列が降りて来た。山へ入った若手の観察隊が帰って来たのだ。幹事さん方の心づくしの豚汁が出来上り、一同揃って昼食会を迎える。

井上会長のご挨拶で始まり、平井氏のご発声で乾杯。小沢氏がオシドリの観察報告をされた。ご寄贈のビールが酌み交され、豚汁が好評を博した。参加者は自己紹介を兼ねて、バードテーブルに来る鳥や年間の鳥情報を述べる。さすがに愛鳥家は紹介も鳥にちなみ「つがいです。」「親鳥です。」と夫婦、親子関係を披露される。「迷い鳥です。」とは東京の岡村氏。ウトナイ湖サンクチュアリの建設を援助された関係者のお一人で、平井氏のゲストとして参加された。にこやかで潑剌たるご高齢者だ。

食後の「福引探鳥会」は趣向がこっていた。大木と水辺の貼絵の中に鳥の切抜きがちりばめられている。双眼鏡で探して当てると「心は何々と解く」と、これ又鳥にちなんでいる。井上会長はアカショウビンで、ナンバンドリともいう、と景品は赤い唐辛子だ。松井氏の著書が当った人はその本にサインをしていただくというおまけ付だった。本物の鳥の巣や鳴笛が当った人もあり、幹事さんのアイデアとはからいに感服した。

小堀氏がとどこおりなく司会をされ、終りに北尾氏が本日の鳥合せをした。帰り際に「バードテーブルのある人にトーキビ一束のお土産。」と小沢氏よりの朗報だ。快晴に恵まれ初参加の人もふえ、楽しい一日だった。

〔記録された鳥〕　キジ　キジバト　アカゲラ　ヒヨドリ　ミソサザイ　ツグミ　ハシブトガラ　シジュウカラ　シメ　スズメ　カケス　ハシブトガラス　以上12種

〔参加者〕　横田通典　羽田恭子　浅沼佳代子　曽根モト　五十嵐優幸　斉木杲一・あつ子　泉屋宣志・恵津子　村上一夫　栃本文子　小沢広記　船尾恭子　長谷川涼子　岩泉ゆう子　平井秀松・さち子　萩　千賀　戸津高保・以知子　梅木賢俊・翼　山崎カツエ　松田　保　柳沢信雄・千代子　野口正男　太丸りつ　北尾　諭　関口健一　白沢昌彦　小副川裕子　天童雅俊　松井由紀子　小堀煌治　品田延一　工藤敏人・哲史　谷口一芳・登志　五十川祐弘・祐至　長尾繁　神野　尊・敬子　清水幸・朋子　松井　繁　岡村　武　荒谷静子　西村辰夫・千世子　武沢和義・佐知子　霜村耕介・耕一　渡部幸　小山弘明・富子・井上元則・高嶋早苗・荒谷静子　以上62名　**〔担当幹事〕**　小堀煌治　平井さち子

〒061-02　石狩郡当別町東小川通574番地

野　幌　　58.3.13

高崎　一夫　　木下　順恵

昨秋、野鳥愛護会に入ったものの、ついぞ探鳥会に参加する機会が得られず、残念に思っていた。それが、3月13日、念願叶って参加出来、これからも、つとめて皆さんと鳥を観に行きたいと思っている。

免に角、ベテランは大したものだ。目ざとく姿をとらえ、細かい観察をして、口々に楽しんでいる。こちらは、やたらと小枝の先を撫で回すだけで、一向に双眼鏡には入らない。動き回る小鳥の姿を追うのが精いっぱいで、朧げな形の他は、とても色どころではない。そのベテランもかつては、私と同じだったと言って、見つける要領を親切に教えて、慰め励ましてくれたことは有難い。

吾が狭庭を訪れる野鳥を窓越しに観察するのとはワケが違うことを思い知らされた。それと、多少は鳥の名を識っているという思い上りが悔まれ、同じ科にこうも種類があるのかと驚いた。ちなみに、この日、チェックしたのは20種にものぼるというのに、私が完全に観察できたのは、トビ、一種だった。

先を行くベテランの一団が揃って、梢に双眼鏡の砲列を向けている光景に感動を覚えた。

野鳥を愛し、自然をいとおしむ静かな情熱のたぎりを感じたのである。

歩くスキーを兼ね、快い汗を楽しめた貴重な一日であった。

近所の小学生にせがまれて連れていった。彼女の心にも私と同じ思いが育ち、それが将来に役立つことを祈っている。（高崎）

こういうけいけんははじめてでとてもうれしかったです。長谷川さんに「オペラグラスに入った」ときかれて「はい」というと「じょうずだね」といわれたことがうれしかったです。そのほかにうさぎやきつねの足あとをみつけたり、木のえだを鳥にまちがったりしたのでとてもおもしろかったです。おべんとうのとき、とてもさむくて、けいとの手ぶくろをはいておべんとうをたべました。かえりにのぼりざかをあそびながらのぼっていると、あっというまにのぼってしまいました。渡辺さんの車にのせてもらってかえってきました。（木下）

〔記録された鳥〕　トビ　ヤマゲラ　アカゲラ　コゲラ　ヒヨドリ　ツグミ　キクイタダキ　エナガ　ハシブトガラ　ヒガラ　ヤマガラ　シジュウカラ　ゴジュウカラ　マヒワ　ウソ　シメ　スズメ　カケス　ハシボソガラス　ハシブトガラス　以上20種

〔参加者〕　長谷川涼子　早瀬広司　岩泉ゆう子　木下順恵　道川弘・冨美子　浪田良三　園部茶一　霜村耕介・耕一　高崎一夫　戸津高保　屋代育夫　柳沢信雄・千代子　渡辺紀久雄　以上16名

〔担当幹事〕　長谷川涼子　早瀬広司

〒064札幌市中央区宮の森4条7丁目2-35（高崎）

〒064札幌市中央区北4条西24丁目石川マンション（木下）

ウトナイ湖　　58.3.27

村上美千子

雪もとけはじめて、春の日ざしがさしこめる今日はとても良い天気です。ウトナイ湖は今が、ガン、カモ類の探鳥には最高の時期と聞いて、心をはずませ参加しました。

ウトナイ湖につくなり、その鳥たちの数に圧倒されてしまいました。何千羽という鳥たちがウトナイ湖の中心に残る氷の上を、埋めつくすようにとまり、翼を休ませています。またそのまわりを、のびのびと泳いでいるのです。ヒシクイの群は、皆どうどうとした表情で、たくましさを感じさせます。ヒシクイの群の中に、白い色の鳥の姿を発見しました。なんとそれは、ハクガンの姿だったのです。ハクガンの姿を見つけたとたんに、その群はいっせいに、ウトナイ湖上空を飛び始めました。それは、まるで私たちに、ハクガンの美しい姿を見せてくれるかの様です。ハクガンは初列風切の黒い部分を、くっきり見せてくれその姿は、私の心を強くひきつけてしまいました。ハクチョウやガンのまわりでは、種々のカモたちが、それぞれかわいらしい姿で泳いでいます。いったい何種類のカモにお目にかかることができるかしら、まずは嘴の先が黄色いカルガモ、頭が緑で白い首輪のマガモ、頭頂が白っぽいヒドリガモ、長く伸びた尾をもつオナガガモ、頬に白い丸があるホオジロガモ、嘴がおもたそうなハシビロガモ、パンダのようなミコアイサ、私のおきにいりの冠羽が長くのびたキンクロハジロの姿もやっとみつけることができました。8種類ものカモにお目にかかれて大満足です。　鳥たちが突然次々に舞い上がりウトナイ湖上空に、いくつか群れをつくり、交さしながらあわただしく飛び始めました。いったい鳥たちに何がお

こったのでしょう？　それはオオワシの出現だったのです。オオワシはなんと雄大な姿をしているのでしょう。オオワシは自由に悠々と上空を舞いじっくりとその姿を見せてくれました。今日は、何千羽という鳥たちに会えて、最高の探鳥会でした。

〔記録された鳥〕　アオサギ　ハクガン　マガン　ヒシクイ　オオハクチョウ　コハクチョウ　マガモ　カルガモ　ハシビロガモ　オナガガモ　キンクロハジロ　スズガモ　ホオジロガモ　ミコアイサ　ウミアイサ　トビ　オジロワシ　オオワシ　チュウヒ　ハヤブサ　シロカモメ　カモメ　ヒバリ　ハクセキレイ　スズメ　ハシボソガラス　ハシブトガラス　（コブハクチョウ）　27種

〔参加者〕　天童雅俊、村上美千子、岩泉ゆう子、曽根モト、後藤義民、島田明英、紅林雅文・幸子、佐々木信男・妙子、野島靖夫、青木二郎、霜村耕介・耕一、北尾　諭・久美子、萩　千賀、房川比呂志、横田通典、栗原　関・文拓・絹子・章子、関口健一、長谷川涼子、早瀬広司、道川　弘・冨美子、泉屋宣志・恵津子、米田幸次・泰子、羽田恭子、園部恭一・静江、野口正男、柳沢信雄、梅木賢俊、黒田聖子　以上39名

〔担当幹事〕島田明英、北尾　諭

〒061-01札幌市白石区厚別西3条5丁目4-8

野　幌　　58.4.24

品田　延一

今日は、朝から青い空に太陽が輝やき、初夏の陽気である。大沢中央口をスタートするとき、突然林の中から「ホーホケキョ、ホーホケキョ」とまことに美しい啼声、よくとおり見事な音色で、我が耳にひびき渡ってきた。何回聴いても新鮮でその華麗なトーンは、名状しがたい、まさに天下一品であり、春一番の使者である。果たして声の主はどんな麗姿か、ひと目みたいのは人情というものだ。春の林をわたる、さわやかな空気を肌で感じながら、適度に乾いた林道を進むにつれて、アカゲラの姿、黒い背広に大胆な白の大縞柄、頭の後ろと、下腹に赤の彩色で飾る鮮やかなファッション。森の伊達男が一行の目を楽しませる。そして高い枝の中ほどには、のんきな父さんオトボケのキジバトさん。仲々のスタイリストで中間色（太陽光線の反射か）着こなすシャレた中年紳士。すぐ下に、小柄のくせに蝶ネクタイでキメた若い男、飛ぶ姿は矢の如くスピードの第一人者か。チョット小ぶとりのゴジュウカラ、目のところに黒の太いアイシャドー、啼き方を変えて私達を混迷の世界に陥し入れる当代一流の、マジシヤン芸能人である。そして現われたのが、声のよくない場末のカラオケお兄さんのカケス君。飛ぶ姿はさすがは、優雅で華麗の極み、羽根とお腹の色合すばらしく絵になる。あたかも、ネオンの輝く都会の夜空を散歩するヘリコプター、……ロマンがあってよい。

坂を下りて水芭蕉と、ザゼン草が満開の群生地を左右に見て心がなごむ。碧い水をたたえた大沢の池がひろがり、中ほどのヨシの上に、熟年の美女マダム、カイツブリさん。魅力的な大きなヒップを誇らしげに貫録充分、顔は濃褐色に嘴のつけ根に真白な緑があざやか、厚化粧ながら艶やかさは抜群、申し分なし。高い空には大型のグライダーのトビのおじさん、翼いっぱい広げて輪をかく姿は、やはり立派。見馴れているが、居れば安心、つくづく平和感が充満する。何故だろう。

少し歩いて、またまた「ホーホケキョ」の美しい音色が、快よく体を通り抜ける。「苦しゅうない、近こう寄れ」との想いは届かず、遂に姿はみせない。

4月の森は、心理的に、ウグイス・アンド・ウグイスであったが、自然界の使者である、多くの森の紳士、淑女にお逢いできたことは、非常に幸せであった。自然の中にあった今日の一日に感謝して、再び逢う日を楽しみに待っています。

〔記録された鳥〕　カイツブリ、オシドリ、カルガモ、トビ、ハイタカ、オオジシギ、キジバト、ヤマゲラ、アカゲラ、コゲラ、ヒバリ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、トラツグミ、ツグミ、ヤブサメ、ウグイス、マキノセンニュウ、キクイタダキ、エナガ、ハシブトガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、アオジ、カワラヒワ、イカル、ニュウナイスズメ、ムクドリ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、　以上34種

〔参加者〕　長岡宏幸・範子・滋雄・ゆりこ、田辺　至、福井スエ、岩泉ゆう子、柳沢千代子、浪田良三、品田延一、長谷川涼子、戸津高保・以知子・高明、武沢和義・佐知子、大坊幸七、天童雅俊、横田通典、道川　弘・冨美子、関口健一、早瀬広司、野口正男、黒田聖子、曽根モト、泉屋宣志・恵津子、工藤敏人、小林正男・裕子・美智子・恭子、田村和枝・剛、黒澤敬子・いずみ・さおり・ゆかり、月岡正義・美智子・正範、石塚紘達・敬子・裕美・紘道、斉藤敬男・和子・みゆき・恵介、羽田恭子、清田吉晴・信子　以上53名

〔担当幹事〕　長谷川涼子　羽田恭子

〒061-11札幌郡広島町稲穂町西2丁目

10月までの予定をお知らせします。旅の途中のシギ、チドリなどの水鳥は鵡川河口で。野幌では冬鳥のシーズンの始まりです。各探鳥会にどうぞご参加下さい。

＜鵡川＞ 昭和58年8月28日、9月18日 いずれも午前9時10分国鉄日高本線鵡川駅集合。(札幌発午前7時34分急行えりも)

＜野幌森林公園＞ 昭和58年10月23日 午前9時30分大沢中央口駐車場入口集合、または百年記念塔前は午前8時30分集合です。

＜野幌森林公園を歩きましょう＞

上記の探鳥会のほか次の探鳥散歩を行います。昭和58年9月25日 昭和58年10月9日 午前9時30分 大沢中央口駐車場入口、または百年記念塔前8時30分集合です。

暴風雨以外は小雨でも行います。昼食、筆記用具、観察用具、雨具等ご持参下さい。

探鳥会のお問い合わせは、早瀬 (011)611-0949まで。

＜定例幹事会報告＞

58年6月1日(水)、18時30分～21時、婦人文化会館

〔出席者〕 岩泉、小堀、柳沢(千)、渡辺、新宮、早瀬、長谷川、梅木、屋代、白沢、北尾、羽田、大坊、天童、霜村、柳沢(信)、野村、岡田。

〔審議内容〕

1、野鳥だよりのバックナンバーの頒布について
2、タイタック(ふくろう)残余の頒布について
3、野鳥写真展の開催結果報告及び今後の特別事業計画等について(以上、総務担当)
4、会費未納者への督促及び未納者の退会扱いについて(会計担当)
5、6月以降の探鳥会計画及び担当幹事について
6、1泊探鳥会の計画について(以上、探鳥担当)
7、野鳥だより発行計画、印刷方法及び編集幹事の分担について
8、地方連絡員体制の確立等について(以上、編集担当)

＜おわびと訂正＞

51号の玉田 誠さんの「オオハクチョウについて」の記事のうち3ページの新旧金属環の図が実物大となっていますが、実物大よりも縮小しておりましたのでおわびいたします。なお、金属環の大きさは、(新)が約32×95㎜、(旧)が16×72㎜です。

〔編〕〔集〕〔後〕〔記〕

新しく編集担当に仲間入りさせていただきました。野鳥だよりが出来るまで、編集会議、原稿依頼、集約読み合わせ、校正といくつかの作業があります。字数や行を数えるなど細かな作業等もなかにはあり、大変であると共にやりがいがあるなあと感じました。次の号又次の号と見通しをたてて毎号発行日には発送できるようにと編集幹事一同今後もがんばっていきたいと考えています。

この号が届く頃は暑さも本格的になってきて探鳥も一段落というところでしょうか。ビールを飲みながらたまには「よだかの星」、「大造じいさんとがん」などの鳥が出てくる(物語)を読んでみるのもいいですよ。

(霜村)

今年度の編集部は、12人の幹事で編成するという大幅な増強がなされました。昨年度は6人でしたので、2倍の人容になった訳であり、その代表として、今年度も私が引き続き行うことになりましたので野鳥だよりの発行について会員の皆様のご協力をお願いいたします。

また、今年度から会の運営の円滑化を図るため毎月第1水曜日に幹事会を行うことに決め、6月に第一回目の幹事会を開催しその内容について野鳥だよりに報告したところであり、今後も幹事会の動き等を会員の皆様にお伝えしていきたいと考えております。

最後に、野鳥だよりがよりバラエティーに富んだ面白い誌面となるような原稿、写真、カット等どんな内容のものでも結構ですから、どしどしお寄せ願いたいと思います。

(白澤)

〔北海道野鳥愛護会〕年会費1,500円(会計年度4月より)郵便振替 小樽 1－18287
〒060 札幌市中央区北1条西7丁目 広井ビル5階 北海道自然保護協会気付 ☎(011)251－5465